

圖畫教育に關する所見

東京美術
學校教授 黒田清輝

普通教育の教科目の中に圖畫科を加へてある理由は、人々のよく知て居る通りであつて、八釜しく言へば觀察力を助長し、また養成するのが其の目的である。其他尙六かしい效能は澤山にあるが、併し簡単な所で圖畫科の必要の理由を述べれば、物の形狀を正しく見る力を付けるといふことが第一の條件である、物の形狀を正しく見るといふことが何よりも最も大切であつて、それから觀察力の如きも生じて來る。これが最も簡単な理由である。手の先きを器用にするなど、無論條件の一つであるが、これは比較的末の事であつて、先づ第一に見る力を與へることが重なることであらうと思ふ、つまり手の先きを器用にするといふやうなことは、藝術に關係してゐることであるが、藝術といふやうな意味に於ける教育は、普通教育には必要が少い。普通教育の方で授くべきことは、頭腦に觀察力を造るといふことであらう、斯ういふ點から考ふれば、普通教育に於て授ける圖畫には、西洋畫が最も適當である。手の先きを器用にするといふ事からは、毛筆の方が無論都合がよいけれども、毛筆は字を書くにも絶えず使つてゐることでもあるし、先づそれ丈でも手先きを器用にするには出来る。必ずしも畫をかなくとも出來やうと思ふ。吾々が外國人と違て箸を持つ點からしても、日本人は手の先きを使ふことが西洋人よりも多く、隨て器用である。しかるに形狀を正しく觀察することは、手際のみだけでは出來ぬ。而して物の形狀を正しく見る力を養ふには、正しい形狀を紙の上に書きあらはすことを習はせるのが最も便利である。それには

何度もく、修正し得らるゝ材料を使ふて、幾度も直してこれを始めて正しいといふことの出来る迄描くことの出る方法によるのが便利なることは言ふ迄もない、それはどんな天稟の能力を有て居ても、始めから方法も何も知らずに正しい形をあらはすことが出来るものではない。

既に形をあらはすことが出来れば、其れだけの形はその頭に映じて居るのであつて、それから從て他の物に對しても、どの角度はどうであるとか、どの線はどうであるとか、いふ觀察力が出來、引き續いて凡ての天地間の現象をも觀察するの力が出来る。人の顔を見ても、此の人は斯ういふ顔をしてゐるからどういふことを考へてゐるとか、斯ういふ骨格の人は品がいゝとか易占者ではないが、大體のことは目に映るのである。これは畫家にならずとも、彫刻師にならずとも、普通人間に必要なことであつて、教育を受けずとも自然にそういふ方に目の高い人もあるけれども、それは特殊の人であつて、普通人には無い、で直接に目に映ずる形状のみならず目に見えないものをも觀察する力が次第につけられやうと思ふ。此點から見ても形を確に現はす習慣をつけることが普通教育に必要であるとおもふ。

洋畫に於て物を寫生する、これはごく簡単なことであるけれども上述の目的を達するに於て、日本畫よりも適當であることは、日本畫の方法によると、花を寫生するにしてもどういふ風に寫生するかといふと、例へば花を寫生すると定むれば、先づ花を持て來て其の雌蕊や雄蕊も調べるし、花瓣の形狀、色合も寫し、鳥を寫生する時にも同じやうにどういふ色合の羽が何本あつて、其の形がどうであるとかいふことを調べて寫すのである。これが日本の寫生の方法であると聞て居る。然るに西洋風の寫生になるとこれと違つて、たとへば茲にマッチ箱がある。此

の箱をばどの位置に置いて、どういふ位置から見ると、自分の眼の位置はマッチ箱の位置よりもどの位高いか低いかまた側面から見たとすれば何度の角度で見たか、光線の方から言へば、此のマッチ箱を光線が何度位の角度を以てどちらから照らすか、といふ具合に、物體の位置、それを寫す人の位置を正しくきめ、如何なる光線が照してゐるかといふことを見る。で長方形のマッチ箱が紙の上はどういふ形にあらはれる。或は平たく或は細長く皆觀る人の位置によつて異なるそうでなければ正しくマッチ箱を見たものといふことは出來ないのである。それで物の形は、その物自ら有してゐるけれども、繪にあらはす時には書く人の見たやうにうつすのである。これが西洋の寫生法である。物の形を正しく見る習慣をつけるには、これに依るの外仕方はないと思ふ。前に述べた花にしても、花の形狀、色合、蕊の數などは、言ふまでもなく知らなければならぬ。けれどもそれを知ただけではいけぬ。何の花をどう云ふ位置から見たといふ方から行くのが、正しく形を見るに最も適當なのである。

現在は如何なる程度に於て洋畫が普通教育に教へられてゐるか、私は其道のことに暗いからよく知らぬが、普通教育に於てはどうしても日本畫を授けるよりは洋畫を授けて依て以て觀察力を増すことが必要である。尤圖畫は美的思想を養成するに於ても大に力がある。美的觀念を起させるといふことが圖畫の大きな效用の一つとなつてゐる。これについて日本畫と洋畫とどちらが優つてゐるかといふに、どちらにしても優劣はなからうと思ふ。たゞ國粹保存とか、日本人には日本畫の在來の習慣を維持するのが必要だとかいふ點から云はるれば、それは一も二もない話であるが、日本畫を學んだから美的思想が餘計に出來るとか、洋畫を學んだから足らぬとかいふことは出來ない。寧ろ洋畫の方が範圍の廣い美的思想を養成することが出來やうと思ふし、又時代的な趣味を養ふ

ことが出來やうと思ふ。洋畫だけ知ても日本畫の趣味は分るし日本畫のことはすべての家庭どこにても知り得るゝ便宜もあるのだから、教育せられずとも日本の趣味は誰でも有てゐると云つていゝ、であるから今日教授するものとしては洋畫の方が適しはせぬかと思ふ。

今のところでは洋畫といふものも、日本に發達しはじめてまだ日の浅い故もあつて、日本畫と非常な懸隔のあるものゝやうに人も思ふてゐるし、また實際さういふ事實もあるのであるが、年を経るに従て洋畫は、方法が西洋式であるといふに止まり繪は日本畫となるであらう。吾々の時代には期し難いかも知れぬが、吾々の次の時代には日本に於ける油繪、水彩畫といふやうなものになるであらう。そして西洋の其等とは趣の違つたものになるであらう。方法は西洋の方法によるけれども、思想や書きあらはし方の趣味は、自ら純西洋式のものとは違つたものが發達するであらう。さうなつた時には日本畫と西洋畫との區別は、たゞ材料と方法とだけであつて、光線を加へて書くか書かぬか、油で作つたもので布上に書くか書かぬか、とかいふ様な差があるのみとなつて、思想の日本のといふやうなことは、洋畫の方にも充分加はつて來る。さう云ふ時を想像して見れば、尙更洋畫を採用するのがよいと思ふ。方法といふ上から見れば正しく形を見るといふことが優れてゐる。思想といふ上から見れば洋畫も日本畫も同じことである。普通教育には、どうしても西洋の方法によつて、正しく物を見る力を養ふのが國家の爲に必要なことであると私は思ふのである。

次に私が洋畫を學んで以來、其の道の研究者に對し、多少憶えたことを教へて、そして導いて來た。それについて今までどういふ風に教へて來たか、これからどういふ風にしたらよからうかといふことを一寸述べやうと思ふ。

第一に私は自分の爲に學んで來たのであつて、人に教へる爲に學んで來たのではない。で、私がどうしても教へなくてはならぬといふ時になつて取た方法は、自分の習つて來た方法の中から最も適當であると思ふた方法を取つたのである此の方法が果して適當なものであつたかどうか兎に角其の結果を見れば豫期したところに合した點もあるやうである。其の重なる點について少しく述べて見れば、日本で最も缺けて居るのは、前に述べた形を正確に見ることである。で此の形を正確に見るといふことに第一に重きを置いたのであつて、其手段としては石膏像を見せてそれを描かせる。それに慣れた時には人體を見せてそれを描かせる。此の人間の身體を描くことは、形を記えるには最も適當である。人間は元來活動してゐるものであるから、幾ら静止して居ても書きにくいものである。も一つは或る方則に依て形が出來て居る。即ち骨格、筋肉の附着の状態、これは殆規則立て學んで分ることである。個人々々の外面の多少の違ひはあるけれども、大體同じやうに出來てゐるから、書物により、又實物により骨や肉の形狀作用を知てこれを更に應用することの出來るものである。外のもの、金石花鳥などによるよりも、人體による方が萬事都合が宜しい、其の教材として最も適當であるといふ點からこれを選んだのである。これは私が、これによつて學んで最も適當なものであると自分の經驗上考へたからしてこれによつたのである。

それで授業の方法教材、思想、或は畫を作るといふ點に於て如何に考へたかといへば、歐羅巴特にフランスで普通行はれてゐるのは第一に先づクラシックによることである。即ちギリシア羅馬の彫刻物によりて學び、後に活た人體を描くのもギリシアの彫刻に類似した形が第一等の形としてある。凡てギリシアを土臺とした形によるので、思想も亦大體に於てその通りである。私は此の思想の點は日本には不適當であらうと考へた。石膏などはギ

ロシア又はローマの彫刻物又は其の寫しを選ぶのが最も適當であるが、思想は何もクラシックに行く必要はない。で最も自由の方法を取つたのである。西洋ではたとへばバイブルの中の一節とか、ギリシアの神話の中からとか題を出すなどいふことが流行る、これを日本ですれば神代の話によるとか古事記などによるとかせねばならぬが、それにもよらず畫題又は學生の思想は極自由とし、學生の好み次第に、クラシックなもので、風俗畫でも、近世の歴史でも何でも結構といふ風に進めて來たのである。これが即ち私が美術學校教授となつてから今日まで多年やつて來た方法の大體の骨組である。それで一寸附言しておくのは、私が思想の自由といふことについては、畫題又は畫題の選擇についての思想のみでなく、描法についての選擇も自由としたのである。それは畫の描法もクラシックな、百年前の描法と、四五十年前のものと、現在のものとは違つて居る。それについても私自身種々試して見たが、歸する所は何でもない、自分流になるのであるから、方法についても私自身種々試して見たが、併しながらせるといふ事にしておいた。尤も日本には參考品が全く無い爲に、そう色々の方法を試る人はない。併しながら或る時代から傳はつた油繪の書き方が日本にもある。それをやつてゐる人も中にはある。それも強て尤め立てはせぬ。又歐羅巴から時々新しい試の畫を學んで來てそれを世間に出して見せる人があれば、その影響を蒙てそれを學ぶ人もある。これも自由に任せておくのである。只實際私が職務としてつとめてゐるのは、無我夢中に他を學ぶのはやるべきことではない。只方法の研究としてやるべきものである。それを故らにやる人のある時には、一應其の因て來るところを私の知てゐる範圍に於て説明するが、それ以上は其の人の自由に任せるのであつて、一定の方式によつて千篇一律のものの出來ない様につとめて居るのである。

それから教授についての制度といふものが、物を教へるには附隨して居る。殊に官立學校では八釜しい規則があつて、それに依らねばならぬことである。が、前述の精神を以て授業して行くのに、藝術を教へる學校を他の學校と同様な規則に當て箝めて行くといふことは、勿論出来ないことではない其の證據には十數年來當て箝めて授業して來たのであるけれども、矢張充分であるといふわけには行かぬ。何故なれば學年制度といふものが、外の藝術についてもそうであらうと思ふがそれはよくは知らぬから立派なことは言へぬけれども、洋畫の授業上には甚だ不都合である。何故かなれば洋畫を學ぶ人を一固めにして、一年づつに切つて、數年の後に卒業させる。それで洋畫などは外の學科よりは遙に出來不出来が著しい。一年學んだから一年だけのことが出来るかといふと決してさうでない。人によつては非常の異ひがある。一年學んで二年も三年もの事をする人もある。一年學んでも半年分か二三ヶ月分のとしか出來ぬ人もある。つまり學年制でやればどんなに優れたものでもそうむやみに進級させる事も出来ないし又技術の進む時期に學年の都合で同じ所に置けば進む人も進まなくなる事がある。又初めの中は非常によい成績で二年三年までは優等であつて、さて卒業近くなつて止まる人もある。そういふ人は止つたからといふて其儘落第させて一年はいゝが二年目も落第といふ事になると退校となるから折角三四年間立派に進んで來たものをそんな目に逢はせるのは誠に氣の毒だ兎に角技術と年級との調和が甚だ六ヶしいであるから多く外國では競技制度を用ひてゐる成る程競技によらねばいけぬといふことは、實際に當つて見て深く感ずるところである。凡そ競技試験によるのは學年制度によるよりも餘程結果が正しく行く爲に授業の任に當るものも幸であるし、又學校の責任として、生徒に看板をつけさせるに於ても確なところがある、例へば何某は何年生だといふよ

りも何々競技の及第者だと云ふ方が其人の力がよく解るとにかく私は洋畫の成績を示すに學年制度によらずして競技制度によりたいとの希望を有てゐるの一人である。これは今までも、随分斯道に經驗を有し、識見を有してゐる人に其説の人が多くて、私共の考もひどい間違はなからうと信じてゐる。たゞ在來の制度を新にするには、たとへ其の事柄がよいとしても一寸行はれがたいものであつて、其爲に實行が六ヶしい。併しながらこれは早かれ晩かれどうしても實行しなければならぬことである。

〔『帝國教育』三四二明治四四年二月〕